

	コード	名 称	区分	コード	名 称		
事業名	610.5	バイオマスタウン推進事業	会計	01	一般会計		
			款	06	農林業費		
			項	01	農業費		
基本 施策	42	持続的で個性的な農林業を実践する	目	03	農業振興費		
			細目	305	地域バイオマス利活用推進事業		
行革大綱の重点事項番号			細々目	51	地域バイオマス利活用推進事業		
担当部課	コード	191200	担当者 氏 名	小林 康志	連絡先	43 -	2302
	名 称	産業建設部農林振興課				(内線)	335

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)		伊賀市バイオマスタウン構想に伴う事業取組		※対象件数
成果(どうする)		バイオマスタウン構想に関し、構想の進捗状況や事業推進の方向性についてアドバイス等が得られる。		
根拠法令・要綱等				
開始年度	平成 19 年度	関連事業		
終了年度	平成 年度			
H21 事業 内容	伊賀市バイオマスタウン構想に伴う事業について、伊賀市バイオマスタウン構想推進協議会で事業実施に対する意見・調整、検証、関係機関との連絡調整をする。			
社会情勢 の変化等				

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	3	目標	3
	バイオマスタウン推進委員会の活動数	回	実績	3	実績	1
			目標	—		
			実績	2	2	2

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	3	目標	3
	バイオマスタウン推進委員会の活動数	バイオマスタウン推進委員会の活動数	回	実績	3	実績	1
				目標	—		
				実績	2	2	2

投入コスト			H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
	直接事業費計 (A)		(千円) 0	(千円) 0	(千円) 350	(千円) 350
	Aの 財源 内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他	0	0	0	0
	一般財源		0	0	350	350
	事業投入人件費 (B)		0.0人 0	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720
	フルコスト(A)+(B)		0	720	1,070	1,070

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
達成度	当初設定した計画を	100%	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	有	
効率性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
効率性	全体コストにおける負担構成は適正である。		
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	バイオマスタウン構想の実現に向けて事業を継続する。
昨年度の取組状況	【状況】計画のとおり進んでいる 【詳細】関係者会議だけでなく、住民の方を対象としたバイオマスやBDF関連のセミナーを三重大学と共催。(バイオマス利活用高度化事業、循環型農業実現モデル推進事業と連携)

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	服部 伊久夫
事業の方向性	【方向性】現状維持
	【理由】
	バイオマスタウン構想の見直し時期まで現状で継続する。
現時点における課題、その他	バイオマスタウン構想に記載のあるハード整備等について、技術進歩や社会情勢の変化に伴い現状とずれが生じている。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	構想の見直し時期(平成23年)までに、現状に合致した内容になるよう、構想内容修正や項目の取捨選択を進める。